

8月までに御献金・御献品頂いた方々

三好長徳様 河合知義様 田口大輔様 池本久子様 トラ様

市沢みど子様 大澤薰史様 田代清子様 下川久美様

南恵子様 熱海弘子様 古賀久子様 坂田艶子様 イナムラヨウコ様

肥前精神医療センター 武藤岳夫様

東町わたや薬局 松雪幹一様

有明メンタルクリニック 中島央様

多布施クリニック 諸隈琢様

山口・佐藤法律事務所様

下津浦法律事務所 下津浦公弁護士

隈・園法律事務所 隈淳平弁護士

はやて法律事務所 福島和代弁護士

井上法律事務所 井上和弘弁護士

ひぜん嬉野・芯銳法律事務所 藤藪貴治弁護士

西新共同法律事務所 八尋光秀弁護士

佐賀DARCにご支援頂きまして心から感謝致します。

佐賀DARCより献金・献品ご協力のお願い

いつも佐賀DARCをご支援して下さり、ありがとうございます。

苦しんでいる依存症者に回復のチャンスと場を提供していくため、皆さまの資金的な御支援を
必要としております。

郵便振替

口座番号 01750-9-123470

加入者名 佐賀ダルクを支援する会

※原則として、郵便局で受け取る振込金受領書の写しを以て領収書に代えさせて頂きます。

※発送作業簡略化のため、郵便振替用紙は全員の方に同封させて頂いております。

※入寮施設での食料(コメ・調味料・油・コーヒー・砂糖など)、日用品(洗剤・タオル・シャンプー・リンス・石鹼など)
の献品も引き続き募っておりますので何卒よろしくお願ひ致します。



News letter

No. 41



Specified Nonprofit Corporation SAGADARC

佐賀
D A R C



849-0937



佐賀県佐賀市鍋島3-1-10
2F



0952-97-6766

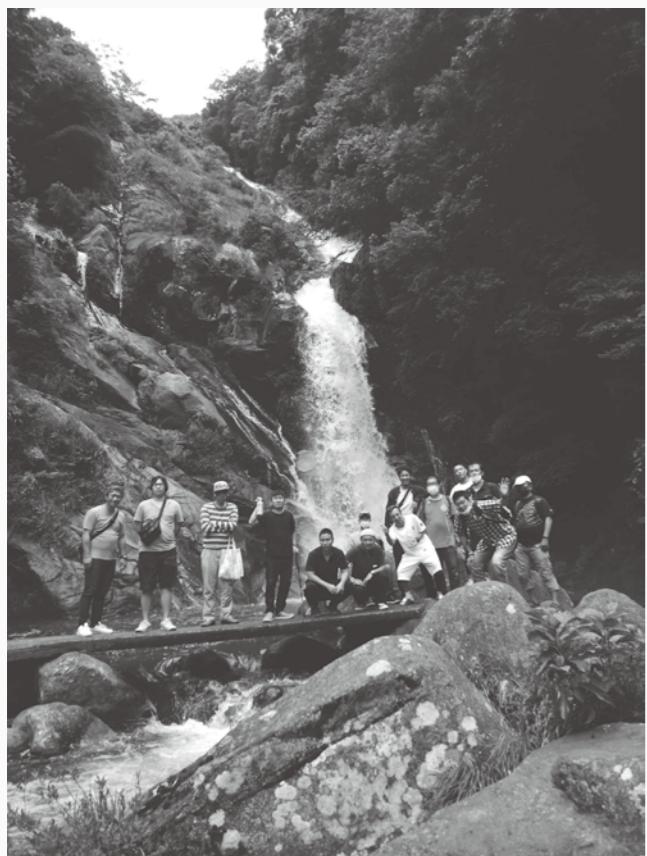


saga-darc@asahinet.jp



saga-darc.jp

DNRC



今年の梅雨は長いなど施設の仲間達もなげきつつ、雨に打たれながらも合羽を着て自転車に乗り自助グループへ通う日々が続いていましたが、梅雨が明けると一転猛暑に。

待ちかねたようにレクレーションで海へ出かけることが増えました。

仲間の中で、人間関係に苦しんだり、仲間に支えられて何とか持ちこたえれるようになった仲間、やっと楽しめるようになったと喜んでいる仲間、様々な段階で回復のプロセスを踏みながら生活を共にしています、刑務所から早くDARCへ戻りたいと手紙を書いてくる仲間もあります。

DARCのなかでは書類に追われながらも、時間を作り仲間達と海やキャンプを楽しんだり、その合間にも飛び出したり入院が必要になる仲間のサポートに関わってくれる職員たちによく頑張ってくれているなど感謝がたえません。

飛び出していった仲間が逮捕され留置所のアクリル板越しに、「キャンプに行くのが楽しみだったんです、でも妄想で仲間の中に居れずに使ってしまいました」と打ちひしがれた姿に「神様は必要ないことは与えないから、もう一度共にプログラムをやっていこう」と伝えながら依存症からの回復の難しさと自分の無力さを感じさせられます。

再使用から佐賀DARCへ出戻りで、プログラムを再度取り組んでいる仲間もいます、生きてまた共にやっていける事、佐賀DARCを信じて戻りたいと思ってくれたことが嬉しく思えます、自分の回復を信じる事、仲間を信じることにも時間がかかります、再使用しても何度も取り組んだことによって得た回復や支えてくれた仲間への信頼は力強いものへ変わります。

DARC創設者の近藤が「失敗ってものはないんだ」と言っていた言葉はDARCにいると実感させられます。

社会で仕事をしながら佐賀DARCでキャンプに行った場所に今年も来てますと連絡をくれる仲間もいます嬉しい限りです。

多くの仲間に関わらせてもらいながら、生かされている自分がいます。

利用者：M



[手紙]

仲間と離れて数ヶ月、二十数年ぶりに逮捕されました。薬物も使いました。1月16日の昼頃の事でした。寝ていると警察官に起こされ、救急車でそのまま搬送されました。その後の事です。警察署へ連行され、取り調べがあり緊急速捕されてそのまま留置所に…。薬物、アルコールを連續使用していた20代の頃、親父に対して「俺なんか産まなければよかったです!」と言って家族の中で勝ち誇った振りをしていました。1番親に言ってはいけない言葉を言ってしまった!と直感しましたが謝ることができませんでした。そのことが苦しいとは自分自身認めたくありませんでした。「ごめんなさい」の一言が言えなくて薬を使いながら自分を誤魔化し続けました。無関心を装いました。その、「苦しい」が自分にも言えなかったのです。その事をずっと心の中に隠し持ちはながら生活していました。

今回逮捕されて、留置所の中でしっかりと自分自身を見つめ直すことができました。親に対して初めての手紙だったけど、自分の気持ちを両親に伝えることが出来ました。あの時、「俺なんか産まなければよかったのだ!」と言ってごめんなさい。そして、俺を産んでくれてありがとう。こんな俺でも面倒を見ててくれてありがとう。今も元気に生きててくれてありがとう。と、ごめんなさいとありがとうを伝えることができました。そのチャンスを与えてくれたことを考えると、逮捕されることが自分にとって必要なことだったと感じられました。

そして何度同じ事を繰り返しても、自分にやる気があればまたそこから回復がしていけるチャンスが与えられることを経験させてもらいました。生かされたことに感謝です。

Mより。

利用者：モトキ

こんにちは、アディクトのモトキです。

今年の冬は割と暖かく寒い思いをせず、春を迎えられてとても良く思います。

春は花見をしながら仲間とバーベキューをしたり梅雨前に海にキャンプをしに行きました。自分は佐賀ダルクに来て2年4ヶ月経ちましたが、幸せと思うようになったのがついこの間です。

以前は処方薬と自分の抱えている障害を受け入れるのが精一杯で右も左も分らないまま生活していました。今は少しずつですが前向きに生きていることを受け入れられるようになりました。それもこれもダルクのスタッフとスポンサーとドクターの支えがありまた、仲間の暖かい掛け声のお陰だと思います。

自分は昔から一人で生きて来たと思い込むことがあり、人を信じられないと思っていました。

それもこれも違法薬物、アルコール、ギャンブルによっての思い込みからだと思います。今が気持ち良ければ良いとか金があれば何とかなるかと色々な一人よがりで生きて来た事から始まっていると思います。

未だ、その生き方が染みついてわがままばかり言ったりしています。それでも、仲間、スタッフ、スポンサー、ドクターは受け入れてくれています。とてもありがたいと思います。これからも色々と迷惑をかけながらまた、助け合いながら今日一日を思いながら生活していきたいと思います。

また、皆さんも身体にはくれぐれも気を付けてゆっくりと回復を進めて下さい。自分もゆっくりと回復を進めています。



利用者：アオ



利用者：シン

初めて薬物依存症のシンです。

佐賀に来て4カ月位ですが、ここに来て色々な経験をさせて頂いています。本当に感謝しています。有難うございます。

仲間と行ったキャンプは生まれて初めての経験でした。テントを設営したり寝袋で気の合う仲間達と過ごせた事が一生の思い出となる事でしょう。ふと夜空を見上げると都会では見られない満天の星空には感動しました。

先日も産まれて初めて沢山の虫の群れを見てまだまだこの世界には素敵な事があるんだなーと思いました。これからもこの土地で暮らしていきたいと思っています。

私は薬物やアルコールに問題がまだまだあるのでそう簡単にはいかないですが、クリーンを続けていく楽しさを発見し続け頑張って行こうと思います。



「最近面白いことないか？ 何かあるなら話を聞くよ！」
ギャンブルスタッフが笑顔と真顔を織り交ぜて、入寮約8ヶ月の私にこれまで何度も聞いてきた。その度に、禁止の携帯電話6台とタブレット1台など預ける事がお決まりだ。
スタッフは、私のギャンブルの欲求の度合い、日頃の行動などを総合的に判断してタイムリーにロックオンするのには…生活費からコツコツ裏金を作って購入してた私には採算が合わない。
それでもめげずにギャンブルをしたいが為にやる。

時には、解約携帯の為住まいのスタッフ室からWi-Fiパスワードを盗んでミッドナイト競輪の電話投票をしたり、Wi-Fi環境場所からネット送金して外部に車券や馬券を購入してもらった。日々のミーティングや仲間との料理・外出プログラムをこなしていく中で頭の中は、1人の時間を確保しての競輪投票だった。GA会場に仲間と移動する時は、競輪選手のようにぶっ飛ばし電話投票する。投票するより選手になろうかと錯覚するほどだ。

「やらなければよかった。週末いいご飯食べれたな…」
結果は、入寮前と同じだった。惨めさと後悔が必ずあった。それでも、また裏金を作る。正直ギャンブルはやりたい。ここに居れば出る頃には何とか生活できるようになってるだろう。

「まだそんな事やってるの？やる事を今しないともったいないよ。」
何度もスタッフや仲間から助言してもらった。周りの環境は最高だし居心地もよい…私は、楽しい生活を求めて佐賀にきたのではない。ギャンブルと向き合う為回復しにきたのだ。本末転倒の時間を過ごしていた。幸い体力とポジティブ思考はあるのでベクトルを転換すれば挽回は十分可能だ。

最近は、意図的だろう。スタッフが筋トレ・ボーリングなどに誘ってくる。ギャンブルに変わるものを見つけたい私に追い風だ。やってやろう！！
ギャンブルは、無力を認める事から回復が始まる。

利用者：ロッキー

依存症のロッキーです。DARCに繋がって3年が経ちました。私は、DARCでいつも規則を破ってお酒を飲んでスリップしていました。そのことでまた施設を飛び出してしまって、もう生きることが辛くなり駅の構内で薬とお酒を飲んで自殺を図りました。でも死ねなかったです。そしてすぐ精神科の病院にかかりました。車いすを男の看護師に後ろから押してもらっていましたが、その時自分は辛いことが一杯あって死にたくて病室に着くまで泣きながら看護師さんに自分の気持ちをぶつけました。すると、その看護師さんに今は昔のロッキーさんではなくなるべくと言われました。今回のこの入院で昔の明るかったロッキーさんに戻れるといいねと言ってくれました。私は、その看護師さんに勇気をもらい、この先も生きなくてはならないなと思いました。

私の入院していた病院は私の事を知っている看護師さんがほとんどで、入院している時は看護師さん達が励ましてくれました。こんなに私の事を心配してくれる看護師さん達と出会ってこんなに自分の事を思ってくれて、すごい感謝しました。自分はそのおかげで一日も早く依存を治し生きていく力をもらいました。こんなにも自分を心配してくれる人と巡り会えて心から感謝しています。今は退院をして施設に戻っています。

本命は薬物の問題なのですが、今はお酒の問題になりNAからAAのミーティングに繋がりました。少しずつですがAAのミーティングに参加するようになってから気持ちが変わり、お酒の欲求もなくなっていました。スリップしてからまだ短いですが3か月のクリーンが経過しました。それも、施設の仲間や外部の仲間の人に励まされて大変心から嬉しく思っています。今、施設でプログラムに毎日励んでいます。自分なりに頑張っていますが50歳を過ぎて身体が弱まっています。身体の調子が悪くても休まずに一日一日を頑張って過ごしています。依存症を克服するために今を乗り越えながら、依存に負けずに健康になるべく闘っていきたいと思っています。今は特にうつ病に悩まされています。うつ病は波が激しくて死にたいとか負のスパイラルに陥っています。身体が辛くなってくると楽になりたいから、死にたいと思うようになります。そういう鬱状態に入った時には楽しい事を考えたり趣味のスポーツをしたりしています。鬱を克服したいと思っています。なので、今自分にとって大切な事は、依存を克服して施設のプログラムに取り組んで一日も早く回復をして、施設に繋がっている間に色々な事を学び社会に復帰出来るように一生懸命頑張っていきたいと思います。



利用者：ヤギ

アルコール依存症のヤギです。早いもので佐賀ダルクに来て1年4ヶ月が過ぎました。いつのまにか最年長になり、入所当時より多少責任感もできた様に思えます。AAのホームグループの活動も司会をやったり、スポンサーも見つける事ができ、充実した日々を送っています。

今はステップワークを中心にスポンサーシップを取り、少しづつ回復の実感を味わいつつあります。と言ってもまだまだ、イライラや不満を持つ感情が消え去ったわけではありませんので、これからも精進を重ねていかなければと思っています。施設の仲間たちとも、和気あいあいで、プログラムも楽しくさせて頂いています。

最近の私の趣味はボウリングで、マイボールセットを購入して、休みの日には汗を流しています。ボウリングもマイボールにすると以前の投げ方では全く上手くいかず、インストラクターの方が、以前のやり方は全て忘れて下さいとの指導。

変えていかない事には、真の回復は望めない、真の成長には繋がらないというビックブックに掲げてある回復のステップそのものだと感じました。

私はアルコール依存症以外に双極性障害という精神疾患があり、昨年からカウンセリングを受けていますが、先生にも以前に比べると大分、不安や恐れの感情が薄れてきていると言われ、その部分でも昔のように落ち込む事が少なくなっているような気がします。今年はコロナの影響で自助グループの活動ができない期間がありました。その後、ズームミーティングで色々な地域の仲間達と分かち合いをする事ができ、先行く仲間達に支えられて、今の自分があると、謙虚な姿勢でこれからも回復への成長が継続していかなければと思っています。

BY YAGI



利用者：よし

アルコール依存症のよしです。私はダルクに繋がって2年が既に経ちました。時間が経つのは早いもので、今は日々のプログラムと夜の自助グループに充実した毎日を送っています。これも今居る佐賀ダルクに来てからそう思えるようになったからです。去年までは東京の施設に居ましたが、うつ状態になり身を投げかけ何とか命だけ助かり治療の結果、ここまで回復出来ました。でも元をただせば依存症が招いた事だと受け止めています。9年前に初めて精神病院でアルコール依存症と診断され、三ヶ月では治らず何度も家族に対して心配を掛けていました。特に父親には不安を与え続け、私が23歳の年に母親が他界し、その部分もアルコールで補っていました。昔は自分自身の病を人ごとにしか感じていませんでしたが、今現在は依存症と向き合っています。施設を通してお世話になった方、迷惑を掛けた方々に埋め合わせしている毎日です。



利用者：ピン

アディクト ピンです。佐賀DARCに来てどういう所か分らなく生活していました。

自分の問題も分らず自分自身適当でした。毎日のミーティングである日自分の問題である、正直さと心を開く事とという大事な問題に気が付くことが出来ました。初めはミーティングは適当でしたが、今は自分の問題と取り組むことが出来ました。ミーティングの大切さ、ありがたさが今はとても嬉しいです。今では自分の問題を吟味出来、自分の問題を知ることが出来とても有り難いです。これも仲間のおかげです。

佐賀DARCの春夏秋冬のプログラムが今ではとても楽しいです。6月のキャンプではみんなでバーベキューをしたり、モーニングを食べたり、カレーライスを食べたり、サーフィンをしたり、みんなで楽しむことが出来てとても楽しいです。これからも、春夏秋冬のプログラムを楽しんでいきたいです。



利用者：マコ

みなさんこんにちは。アディクトのマコです。僕は4年前、佐賀ダルクを半ば飛び出す様にして出ました。それまで施設移動も2回経験し、5年前再び佐賀に戻ってきたのですが、仲間の中にいても居場所が見つけられず、何をやっても上手くいかず、僕自身を感じた自分の回復と現実のギャップを受け入れる事が出来ませんでした。

自分と向き合う事が苦しくてたまらず投げ遣りになり、僕は施設の中で暴力沙汰を起こしてしまいました。実際に相手に危害を加えた訳ではなかったけど、有無を言わさず暴力で物事をひっくり返そうとする昔のやり方をしてしまった時、3年プログラムをやってきたのに何も変わらないことを思い知られ、僕は心を閉ざしてしまいました。スポンサーの提案さえ全く受け取れず、ついにはスポンサーシップを解消され心は荒んでいく一方でした。

調子を崩し入院していた病院で彼女と知り合い、自立すると告げると「自分の足で立ち上がって」と僕に地元に帰れる分だけのお金を持してくれました。僕は俄然やる気になり住み込みの日雇い作業員として働き始めました。その後部屋を借り、トラックの運転手をしました。仕事も頑張りました。1ヵ月の内29日働いたし、腰の骨が潰れても、あばらが折れても働きました。僕が頑張れば彼女が喜んでくれたし褒めてくれたからです。

順調だった訳ではありませんが、薬は3年止まりました。

入手経路を正気のうちに全部潰しておく事とお金は彼女に管理してもらうことをやったおかげで平安な日々は続いたのですが、昨年4月、少しまとめたお金が入った事で気持ちが浮つき始め、折り悪くただ一つどうやっても消せない、頭が覚えてしまっている売人の連絡先。今までつながらなかったのに刑務所から出てきて繋がってしまい、またいつでも薬が手に入る状態になってしまいました。

すごく苦しかったです。彼女と会話していても上の空で、ご飯を食べても味がしませんでした。3日と持たずに薬が欲しいと売人に電話していました。買いに行く時も赤信号で止まる度「まだ間に合う」とUターンしようとするのですが体が言う事を聞きませんでした。

それから連續使用になり彼女や家族を裏切っている罪悪感との板挟みで苦しみました。53歳という年齢もあり昔のようには使えず、使うと必ず心臓発作を起こしました。胸ぎゅっと締め付けられ脈は乱打し、飛び、息は上がり目はぐるぐる回ってホントに苦しかったけど、僕はこのまま心臓が止まってくれたらいいのにって思いました。

肥前にも何度も入退院を繰り返しプログラムを受ける中で僕は再びダルクと繋がる事が出来ました。そして気が付いたのは、確かに3年薬は止まっていたけど、僕のアディクションもその影響を受けた心の病みにも向き合うことなく過ごしてきたので僕の回復は止まっていた事です。

一度は断られたスポンサーの提案も今は受け入れてやろうとしています。よくなりたいからです。でも先月3ヵ月目に潰れました。そしてダルクを出て仕事しようと決めたけど結局携帯電話すら怖くて持てませんでした。一発薬を体に入れたら使い続ける事しか選べなくなることがよく分かっていたからです。

僕がダルクに戻ることを決めた時、僕の病気のことをよく理解してくれる弟が彼女に言っていた事を思い出します。シャブは人格を破壊するって言っていたのですが、全くその通りで、やっぱりこの病気は今の自分には手に負えません。いつ病気が再発するかビクビクしていましたが、でも唐津に来て愉快な仲間達と安心感の中でのんびりプログラムをやらせてもらって、今は使わずにいられる事、使う事を考えずにいられる事が楽で、嬉しくて幸せです。

今は僕に関わってくれている人達に感謝の気持ちで一杯です、ありがとうございました。



利用者：マツ

こんにちは。ギャンブル依存症のマツです。

早いものでダルクに来て9ヶ月が経ちました。

三月には、フルマラソンに挑戦しました。

三ヶ月ほどジョギングやウォーキングなどして、トレーニングした結果、5時間ほどで完走することができました。

しかし、左ひざが疲労骨折してしまい、今も病院通いをしています。

治ったらまたジョギングを再開して、心身の健康を取り戻したいです。

ダルクでは毎日、午前中はミーティングをして、午後はスポーツや映画鑑賞、外出などのプログラムを行っています。昼ご飯や夕食はみんなで料理をしたりしています。

そんな日常にもすっかり慣れてきて、今ではマンネリ化しています。

ギャンブルのない1日を大事にしていきたいと心では思っていますが、最近は朝起きてデイケアに自転車で行くことが億劫になっています。

最近あるショッピングセンターのビルのトイレの香りが、以前入り浸っていた場外舟券売場の香りに似ていて心がざわつきました。

さらに左ひざのリハビリ後、クリニックのデイケアに向かう途中に、パチンコ店に入ってしまいました。パチンコはやりませんでしたが、ギャンブル欲求が強くなっていますが、我慢の断ギャンブルになっています。

パチンコをやって樂になりたい気持ちに今はなっていますが、1年のメダルをもらいたいのあと3ヵ月を「今日一日」をモットーに過ごしていきたいです。



利用者：たくや

ギャンブル依存症のたくやです。私は16歳の時にパチンコ、スロットのギャンブルを始めました。

私は18歳の頃にインターネットカジノ通称「インカジ」を覚えました。一日2800万を勝ち週間で消えました。ですが敗北感というものを覚えず、もっと勝ちたい、俺はギャンブルと共に存出来るんだと思っていましたが、23歳の頃にギャンブル依存症ということで施設に無理やり入れられました。しかしそうして脱走し入退院を繰り返しました。25歳の誕生日を迎える頃には身も心もボロボロっていました。そして現在は新たな施設で同じ境遇の仲間と共に回復し続ける事にしました。

もしギャンブルの事で悩んでいる方は是非おいでなすって下さい。では、失礼します。



利用者：義輝

ギャンブル依存症の義輝です。私は、生まれた頃から人と違う個性が強いです。障がいもあり、人と関わるのが苦手です。

しかし、ギャンブルが大好きで光る台が好き。もう、開店から閉店まで一日打ちまくり。勝てば天国。負けたらホームレス。そう、いつもホームレス確定。拳句には、親に泣きつき。もう!(^^)!借金地獄。…6500万円”(-“-)泣き泣き。親に立て替えてもらいまし放し。頭があがりません。親も堪忍袋の緒がきれて施設に送られました。(*'ω'*)

早半年過ぎて、まだまだ欲求ありありですよ。もうやりたいが……99,999%やりたい。しかも、一回打ちたい思いから現実に夢を叶えてしまうというスリップを経験しています。コロナでマスク着用しないと今のパチンコは入れないという掟もあるのに、たまたま持っていて打ちました。打っても、面白いとは感じず、後悔ばかり残っていましたよ。

では皆さま、またの機会にまた逢いましょう。サヨウナラ。



利用者：たく

ダルクに来て3ヶ月が経ちました。最初のダルクのイメージは、怖い人が沢山いるイメージでした。佐賀ダルクに体験に来た時に仲間が優しく接してくれて佐賀ダルクを選びました。

私は薬物依存症以外にも統合失調症を患っていて、症状が出るたび施設の職員や、施設の仲間に助けてもらっています。

薬物を5年前から使い始めて、薬物だけでなくアルコールも大好きでかなりの借金をしてきました。友達や家族からの借金があり、お金の問題になると信頼関係にも繋がるのでどんどん周りから仲間が消えて行き、気づいたら仲間というのは薬物と一緒に使っている仲間、売人だけになってしまい、孤独になっていました。しかし今は志しが一緒に過ごしていて、孤独感も無くなっています。そんな仲間を大切にしていきたいと思い今は頑張っています。

今はキャンプや釣りなど自分の好きな事が沢山出来て楽しく回復が出来ているので、充実しています。

この様な環境を与えてくれた仲間や施設の方には感謝しています。これからも頑張ります。



利用者：グベ

コロナがすこし落ち着いてきたので、GWに行ける予定だったキャンプに仲間と共に受けた。二泊三日だったが、あっという間に時間が過ぎていた。佐賀の街中に帰ってきたときなんかガッカリしてしまった。自然の中が気持ちよかったなあと;;;テレビも携帯も便利な物は何にもなかったけど、それでももう少しキャンプが續けばいいと思った。

仲間と共に協力してテントを建て、食事を作り、話していくつもと違った一面も見つけられた。

昔からのあだ名をアノニマスネームで使った。

「グベ」だ。グリーンベレーの略だ。だいたいがワイルドだけど、2泊3日のキャンプで痛感した。

ワイルドライフと仲間が最高ってことを。



利用者：宏樹

こんにちは、アディクトのBig-Kこと宏樹です。

この前のキャンプについて書きます。

最初の予定では、ゴールデンウイーク中にキャンプに行く予定になっていましたが、コロナの影響で延期になってしまって、まだかまだかとても待ち遠しかったです。

去年キャンプに行った時とても楽しかったし、すごく楽しみにしていたので延期になった時は非常に残念でした。

でも何日か経ってキャンプに行けるようになりました。まるでゴールデンウイークが2回来たようでした。

そして、キャンプ当日とてもウキウキしていました。

テントを張るのはすごい大変でしたが、仲間とテントの中で寝泊まりするのはすごく良い時間でした。

二日目は一つのテントで四人で寝る事になり、狭くないかな?と思いましたが、少し外が寒かったので、みんなでくっつき合って温かく温もりを感じました。

アディクション真っ只中の時はキャンプをするとか思ってもいなかつたのですが、今ではキャンプが毎年楽しみになっています。

P.S

サザエを食べながら、レゲエを聞くキャンプの夜は、最高です。



利用者：ヒロシ

全国のアディクションで悩んでいるアディクトの皆さん。私は佐賀の親父のヒロシです。

以前お世話になっていた館山ダルク、又は駿河ダルクでは色々と事件を起こし申し訳ありませんでした。今はこの佐賀ダルクの施設長をはじめスタッフや仲間のサポートのお陰で後もう少しでクリーン1年です。

私は26歳で精神障害者になり、精神病院を15軒50回以上入退院し未だに身体が揺れ動いています。でも、持ち前の根性で頑張っています。

昨年の佐賀ダルクのフォーラムでは山形ダルクにスカウトのお話を來たりして大活躍しました。私はアルコール依存症で、毎日毎日ミーティング会場まで自転車の移動で雨の日はカッパを着て頑張って通っています。

佐賀ダルクでは小学校以来のキャンプをしたり、40年ぶりにボーリングをやり好成績をおさめ大興奮しました。芸能界にも後輩がいて日本アパリにも通所していました。今はこの佐賀ダルクに入所して良かったし、第3の人生を送ろうと思っています。

